(in Japanese)

廟祝問答 全

Biyoshiki Mondo

Dialogue between a Missionary + Priest

Translated from the Chinese by Rev. M. Okuno

廟祝問答巻の上

こゝに、一人の傳道者、ありけるが、あるとき、一廟に、いたりしに、左の手に杖をとり、右の手に、髭をひねくりて、廟の外面に、坐せる、ものありければ、道近よりて、かれに、いひけるは、伯父よ、汝は、つねに、福を得て、やすからん、老者こたへけるは、われは、孤獨にして、苦める、ものなり、なんぞ福を、うると、いはんや、道いひけるは、汝は、日ごとに、杖を曳て、眼をあそばしむ、われ、おもふに、汝は、心たづなふ、世を、わたる、人ならん、しかるに、苦める、ものなりと、いふは、なんぞや、老こたへけるは、われは、さるものにあらず、たゞ、この一廟をまも

きるのみ、道とひけるハ、汝ゑをよりこの、廟の、祝なるろ、
老いそく、しかり、道をし、しからば汝こそハ、さいそひ、おほ
き、ものおふん、そも、諺にいへることく、官に近づけば、貴なる
厨に近づけば、食をうると、汝をつねに、菩薩に、ちかづける、その
なれば、なんぞ福を得ざらんや祝こゑへけるハ、われ、もろ
くの人に、かそりて、菩薩に、つかふるが、ゆゑに、さひはひハ、
人に歸して、われに、あづかる、ことなし、道いひけるそ、わき
きく、菩ハ、普なり、薩も、濟なりと、これ、をなはち、世の人を、
普く、濟て、そのめぐみを、廣く、ほどこその、名にあらずや、も
し、あまねく、人をそくひ、廣くめぐみをも、ほどこすの、菩薩な

らば、朝夕、つとめて、これにつかへ、つねに、ちかづける、汝を、すてゝ、すくはざるの、ことわり、あらんや、汝がつかふる、ところの、菩薩は、このことわりを、しらずして、親疎をも、わきまへざる、ものなるか、祝こたへけるは、われ、菩薩につかふること、はや十年、あまりに、なりぬれど、たゞ、こゝに、身を寓、すこしの、蠟燭を、賣てこれを、生活の資と、なす、のみなれば、兩餐の、食を、うることだに、おぼつかなく、あるひは、飽、あるひは、飢、つねに、さだまれる、食料も、なくて、まづしきを、なんぞ福を、うるものと、せんや、道いひけるは、汝はつねに、菩薩に、ちかづき、香花燈明を、そなへて、つかへ、まつるに、なほ、

福を、得ずと、いへど、まして、菩薩に、遠ざかり、これにつかへざる、人々の福を、うるは、いかに、かたからずや、かく、かたりあふ、二人の、心の、ことば、いまだ、をはらざるに、たちまち、廟に、いりきたりて、神を、祭らんとする、人ありければ、祝その後に、したがひ、傳道者も、また、かれらと、ともに、きて、みぬ、かくて、神を祭る人、燈を點し、香を焼き、牲を排て、酒を列へ跪き、神をいのりて、籤竹をとり、など、さまざまなる、ことを、なせり、又祝も、鼓をうち、鐘をならせり、これらのこと、すべて、をはれば、神を祭れる、人そのそなへ、ものを、取拾て、されり、そのとき、傳道者、祝に、とひけるは、燭を點し、香を焼は、なん

の、こゝろぞや、祝こたへけるハ、これ、神をうやまふの、誠心を、表そのミ、道いひけるハ枯木を、うやまへばとて、なんの、益あらんや、祝こたへけるハ、木に、彫ある、像を、うやまふにハ、あらず、たゞその像に、附ところの、神をうやまふのみ、うハ、すべて、この像を、拝むものハ、その助を、うればなり、道いひけるハ、はたして、神ハこの像に、つきたまふや、祝しかり、道もし、しからば、鼠に穿れ、蟻に、蛀れて、みづから、保こと、あたはざらんや、われ今、この、枯木の、菩薩を、みるに、みづから、その身をだに保つこと、あたはず、いかで萬民を、たもちえんや、しかるに、汝、生活身軀を、もちながら、なんぞ、枯木ハ、菩薩

に、つかふるや、腐朽はつべき、枯木を、あがむるハ、蝸や、蛇を、拝む、ものにも、くらぶれば、さらに、おろかなりと、いふべし、されば、その燭を點し、香を焼くハ、論ずるに、あらず、汝もまた、こたふるのみ、ことばなければ、われふたゝび、これを、とはじ、されど、なほ、ひとこと、とはん、牲を、つらね、酒をそなふるハ、またなんの、ゆゑぞや、祝こたへあるハ、これこの、ものを、さゝぐるハ、菩薩をして、これ、もてなしを、うけしめんが、ためなり、道いひけるハ、われ今、その祭物を、みるに、存在にして、すこしも、減ずることなし、なにを、もては、その、もてなしを、うくるをしらんや、祝こたへけるハ、菩薩、その祭物を

うけたまふに、あらず、た、その氣味を、うけたまふのみ、道しからば、神を祭し、みち、それ供をのハ、かならず氣味を、うしなふべきに、われ、いまだ、その酒は、化して、水となり、肉の變じて、薪となりし、ことあるを、きかず、たゞ、その物に、冷熱との、異ことと、あるのみにして、その氣味を、うしなふ、ことなければ、菩薩これを、うくると、いふことを、得んや、それ神ハ、生命を、養そんが、ためみ、この食物を、もて、人にあたへ、たまひしに、なんぞこれを嘗ること、さへ、あたはざる、口に、さ、ぐるや、ことにこれのみ、ならず、簽竹をとり、さま〳〵の、ことを、なすハこれまた、なんみこ、ろぞや、祝こたへけるハ

菩薩あらかじめ、われらが、禍福を、しめしたまはんが故なり、道いひけるハ、それ菩薩も、口あれども、言こと、あたはず、いかで、人ハ禍福を、つげんや、祝いひけるハ、菩薩、みづから、ものいふこと、あたはざれど、籤竹ハ、ことばに、よりて、禍福を、つげたまふなり、ゆゑに、籤竹ハ、ことばをだに、よくさとらばきたらんとする、禍福ハしらるべきなり、道とひけるハ、籤の語を、さとせよ、なんぢ、法あるや、祝こたへけるハ、正月とるところハ籤をもて、一年の、ことを、さだむるなり、これゆゑに、もし吉籤を、えばそれ年の、ことみな、吉慶とし、半吉の籤を、えば、平穏なりとし、凶籤を、えば、吉ハ少く、凶ハ多しと、な

すなり、道いひけるハ、それ、かならず、ミな、驗ありや、祝こたへけるハ、かならず、驗あり、道いひけるハ、およそ、驗といふハ、しばらくもとめて、しばらく、應ずるを、いふなり、しかるに、われつねに、おほくハ、人の、吉籤を、えたるものを、みるに、いまだ、こと〳〵く、吉にあふこと、なきのミならず、かへつて、凶にあふことあり、また、凶籤を、えたるも、いまだ、凶に、あふこと、なきのミ、ならず、かへりて、吉にあふことあり、あるひハ、籤語ハ應を、えたりと、おもふ、ものあれど、うは、まゝ、まぐれあひなるのミ、すぎざるのミ、いかで、籤語の應と、いはんや、こゝに、おいて、祝こたへず、たゞ首を、ふれり、道まなといひけ

ゐるハ、鐘をならし、鼓をうつも、なんのこゝろぞや、祝てたへけるハ、その意二あり、一は朝夕ごとに、菩薩の、威霊を、まさんことが、たゞなり、一ハ供祭れとれ、菩薩れ、うけいれ、たまはんことを、りぐるなり道いひけるは、鐘鼓を、うちならさざれば威霊をまし、供祭を、うけいる、ことと、あたはざるれ、菩薩、いろでろ、うけまへに、そなふところれ、物状、しらんや、いはんや、また、いまだ、きたらざる、後の、禍福を、ゑんや、汝生活、霊軀を、もちながら、なんぞ、枯木の、偶像に、つかふるや、祝ことふるふ、言なく首をたれて、坐せり、道いひけるハ、おほよそ、人のうくる、ところの、恩ハ、こと〴〵く、真神より、きたるなり、し

ゐるを、眞神に、感謝せずして、かへつて、眞神のあたへ、あま
た、ものをもて、枯木の、偶像に、さゝげ、ことに、謝するは、これ
罪なり、眞神に、於て、その刑罰、のがるゝ、所なし、それ、まさしく、
不肖なる子の、その、父母に養育られし、恩を、感ぜず、かへつて、
父母は、物を與へ、それをもて、父母は仇み、おくり、これは、
謝することを、するが、ごとし、もし、かゝる、ものあらば、その
父母たるもの、いかにして、これを、刑せざらんや、されば、父母
の、恩は、そむきすら、なほ、その罪、のがれ、がたきをしる、なんぞ、
ひとり、眞神に、さからひて、罪を、うくるをしらざるや、それ、つみ
を天に、うれば、いのる、ところなし、諸神を、拜し、佛祖を、禮する

じを、眞神の刑罰は、のがれざるべし、祝いひけるは、人は神の力を、望み、草は、春の、生を、望と、諺に、いへるが、ごとく、われらも、菩薩神祇に、つかへて、神の恩を、望なり、しかるに、汝菩薩を、すてよと、いふは、ことわり、なきは、説ならずや、道いひけるは、これわが、説の理なきに、あらず、汝が心の、あきらか、ならざるなり、汝ら無情の、菩薩、いける、人を、護助るの、能なきを、しらざる、のみならず、これに、つかふるは、すなはち、業禍の、みちに、おもむく、わざなるを、しらざるなり、これゆゑに、われこゝに、きたりて、眞の、みちを、つたへ、汝らをして假を、すてゝ、眞に、したがえしめんとせり、汝ら、もし、心を、ひ

るがへし、眞神に、つかへなば、陰府の刑場を、脫れて天堂の
樂境に、すゝむ、ことをえん、もし、人たゞしき、すぢに、そむき
て、邪なる、みちに、いらんとき、これを、みちびきて、まことの、
みちに、かへす、ものなくば、みづから、そのすぢの、邪なるを、
しるによしなく、いよ〳〵、まよひゆきて、かへるとき、なか
るべし、今わが、この道を、つたふるは、すなはち、汝が、うへるべ
き、みちの、うたを、指して、をしへ、みちびくが、ごとし、しかれ
ども、信ずると、信ぜざるとは、もとより、汝らに、あて、悦と悦
ばざるも、また、汝らに、よれるなり、われ、汝らに、をしへ、さと
すて、こと、かく、諄々にして、勞倦ことなきも、わがなすべき、と

ころ故、なせるなり、こゝに、おいて、祝いのり、いひけるハ、汝すみやかに、これよ、速に、さき、こゝに、ありて、神に、さからふこと、なかれ、道 いひけるハ、汝こゝろを、しづめて、わが、いま、詳に、かたるを、きけ、それ、世人の、つかふる、菩薩は、全く虚假なるものなり、汝きかずや、むかし、神農黄帝より、堯舜禹湯み、いたるまで、みな壽考を、享その民も、みな安樂なりしが、そのときに、あたりて、中國、いまだ、偶像あらざりき、夏の世、商の代の、際に、いたりて、人の、こゝろ、罪惡に、かたぶき、眞を、はなれて、假にしたがひ、妄に、天を、となへて、神となし、鬼神に、媚て、福を、もとめたり、又商の代、武乙皇帝に、いたり、は

じえて、偶像を、まうけて、神となし、のち暴雷の、ために、震死しことあり、これ、真神、雷をもて、偶像を、つくれる、ものを、罰し、後人を、警めたまへるなり、それより、このかた、後漢の世、明帝の時に、いたり佛法はじめて、中國にいり、偶像を、あがむる風俗、漸々、さかんに、なりゆき、その禍ながれて、つひに、日本國に、およぼし、その害を、うくること、淺からず、その源を、たづぬれば、この菩薩、もと中國より、いづるに、あらず、そなはち、天竺より、きたりしが、華人、これを、信じ、これを、あがめて、つひに、風俗相染て、その謬の、もとをも、たづねざりしなり、しかして、漢より、このかた、華人、いよいよ、真神を、認て、

天地の、大主宰と、なすもの、なきに、いたれり、こゝに、おいて、異端を、信仰し、偶像を、崇拝て、これに、つかへ、はなはだしきは、香を頂に焼き、燈を指に燃、葷を禁め、食を断ちて、自ら、それ身を、毀傷をも、しらず、あるひは麗衣を、よそほひ、あるひハ、華旗を、ひるがへし、老たるも、若きも、ともに、ならひたがひふ、きそふて、東西に、奔走南北に、羣集、いたづらに、光陰を、ついやし、その、本業を、すて、その職務をおこたれるに、いたれる、その弊豈なげきに、勝ゆべけんや、漢よりこのかた、今に、いたるまで處として、社寺あらざるハ、なし、しかのみ、ならず高き、卑き、みな、つとめて、枯木の菩薩に、つかへり、これ、菩薩、

またして、禍を轉じ、福となし、得ば菩薩に、つかふるの、世ハ、悉く太平を、享人の、よハひも、また延長こと、堯舜の、世よりも、まさる、べきに、さハなくて、漢晉の世より、このかた、國の、みだれ、家は、ほろぶること、絶まなく、祚運、ながゝらず、世代おとろへて、人の壽も、また促く、干戈しば〳〵、動き盜賊やむとき、なきハ、なんぞや、それ、これは、禍これは、患に、あふハ、みな菩薩に、つかふるに、よりて、まねく、ところ、ならずや、また、世は人々福を、もとめんとて、菩薩に、つかへ、かへつて、禍を、うるときハ、菩薩は、つかふるに、たらざること、辯ぜずして、明かなる、このゆゑにまれ、菩薩を、いつハりなる、ものと、いふ、また、う

べからずや、汝こゝろを、しづめて、これを、おもへ、わか言を、すつるなかれ、祝こたへけるは、われら、菩薩、神祇に、つかふるをはなみよ、みな、その、保護を、うけざる、ものなし、しかるに汝なんぞ、上古を、その菩薩なしと、いふや、もし汝がいへるごとく、ならば、いにしへの、人たれによりて、その、庇佑を、うけしや、道いひあるを、天下の萬民、一人として、真神の、保養を、うけ、その、鴻恩を、かうむらざるものなし、一切の事物、あるひと、與へ、あるひは、廢り、あるひは、貴き、あるひは、賤く、あるひは、喜び、あるひは、憂るなど、さま〴〵に、ありさまなるを、皆真神の、藏與、たまふところなり、なんぞ、偶像菩薩を、

關係あらんや、いかにとなれば、汝らが、つかふるところの、菩薩ハ、みな、いにしへの、人の、死して、冥府に、下りし、ものなれば、なり、しかるに、木石もて、その形を、雕刻、みだりに、尊號を、くはへて、神となへ、これをあがむること、その、愚、その、罪、なるを、なんぞ、かぞふるに、いとまあらん、祝いひけるハ、菩薩ハ、みな、封贈を、うけざる、ものなれば、その像を、拜むを、これ、すなはち、その、神を拜むなりと、道とひけるハ、菩薩も、その、封贈を、たれより、うけたるや、祝こたへけるハ、天子より、うけたり、道また、とひけるハ、もし天子、死せる、ものに、封を、あたへて、ことを、神と、なし、うるとせば、その權ハ、

またたがあたへしや、祝こたへけるハ、天子ハ、富四海を、た
もち、その位おほいに、その徳さかんなれば、その權も、また、
あたハざる、ところあらんや、道いひけるハ、天子權ありと、い
へど、その臣をして、他國に、官たらしむること、あたはぞ、い
かでか、死せるものをして天地み、神たらしむることを、え
んや、汝ら孟子の、いへる、言を、しらずや、天子人を、天に、薦
ることを、うるも、天をして、人に天下を、あたへしむること、
あたはずと、そき、すでに、天をして、人に天下を、あたへ、しむ
ることあたはざれば、まして、人に、その封を、あたへて、天地
に、神たらしむることを、得んや、たゞのみならず、天子を、人

なり、そのおさむる、ところの、ものも、人なり、また人ハこの世に、ありたりとも、已に、死せるものハ、世にあることなし、その地と、その權とを、もて、これを、論ずるとも、うべきに、あらず、いかにとなれば、一人ハ、數百年の前にうまれ、一人は數百載の後に、うまるればなり、且時と、理とをもて、これを、論ずるとも、また、あたハざるところなり、もし、生れて、死せる、人をもて、神と、なさば、その、神と、なすところの、人いまだ、生れざるときハ、なにをか、神と、なして、つかへしぞ、祝こたへけるハ、汝今、われらが、つかふる、ところの、神ハ、いつはりの、ものなれば、これに、つかふべからずと、いふ、もし、また

して、志からば、われらが、りかふべき、神はいかなる、神ぞや、道いひけるは、それ、天よ、ふたつの、日なく、民にふたつの王なし、されば、天地の、うちよも、また、ふたつの、神あらんや、神は、たゞひとりの、眞神の、ほかに、あることなし、祝いひけるは、天地を、れほいなり、いかで、ひとりの、神これをおさむる、ことをはん、それ、一國に、王たるものひとり、そづから、その國を、おさむること、あたはざるが、ゆゑに、百の官をして、これを補佐しむるが、ごとく、神も、また八百萬も、神をして、これを、たすけしめ、賜ふべし、道いひけるは、今わが、汝に、つぐる、ところも、眞神は、あたはざるところ、なく、志らざ

る、ところ、なく、いまさゞる、ところなき神に、ましまして、天地萬物を、創造これを、おさめ、つかさどり、たまふ、ところハ、神なり、しかるに、もし、眞神死せば、人ハ、たすけ、たのむと、いはゞ、神いまだ人を、つくらず、人いまだ、死せざるに、とハ眞神を、たすけし、ものは、たれなりしや、これ、わがいまだ、さとらざる、ところなり、祝とひけるは、汝が、いふところの、眞神ハ、すなはち、わがつかふる、ところの、菩薩なるか、道しからず、眞神ハ、天地の、大主宰なり、死生禍福の、大權を、とり、たまひて、至尊、これに、對ものあることなし、祝とひけるハ、天ハこれ、眞神なるか、道しからず、眞神の尊こと、天にてゆ、祝

また、とひけるハ、巍々乎たり、維天ぞ大なりとぞ、いかに、眞神ハ尊くとぞ、ゆゑでか、ときにとはんや、道いひけるハ、天ハ、すなはち、眞神ハ坐位なり、われ、今汝ハ、ために、たしへを、まふけて、これを、しハん、天子尊か、宮殿尊か、祝こたへけるハ、天子尊し天子ハ、すなはち、宮殿ハ主なり、道いひけるハ、汝すでに、天子ハ宮殿ハ主なるを、しりて、なんぞ、ひしり、眞神ハ天に主たるを、しらざるや、祝しひけるハ、眞神は生まし時、ありや、道こたへけるハ、眞神ハ自然にして、ましませる、それなり、天地、いまだ、あらざるしき、すでに、眞神、いませり、始もなく、終もなく、萬世萬民の主よ、いませば、萬民ことしく、これ

ハ、つかへ、まつる、べきを、志るべし、汝なんぞ、假を、すてゝ、この眞に、志たがひ、つゝしみて、眞神に、つかへざるや、祝こたへけるハ、われら、卑下身をすて、いかで、至上眞神に、ちかづき、それにつかふる、ことを、ゑんや、道いひけるハ、眞神ハ、すなはち、萬民の慈父にして天子より庶人に、いたるまですな、その權の下に、屬ば、人々これに、つかふるは、その本分なり、なんぞ、尊卑を論せんや、たとへ、惡人なりとも、前非を、悔ひ、愆を、あらためなば、なんぞ、つかふることを、ゑざらんや祝いひけるハ、われきく、天地を、まつるべきものハ、天子なりと、もし庶人にして、これを、まつらハ、罵神の罪をうべし、道

いひけるは、それ、人のこゝろを、もて、尊卑を、わかてるのみ、眞神の旨には、かなはざるなり、たとへば、こゝに、父母ありて、あまたの子をそだてるに、その長子、みだりに、尊大を、たのみ、おのれひとり、その父母に、つかへんとするとき、次子を、またおなじく、つかへんとすべし、しかるに、長子これを、とまたげなば、その父母たるもの、長子の、なすところを、よろこぶ、べからず、そもくまた、長子の、こゝろに、したがひて、次子の、つかへざるを、よろこばんか、汝いかにおもふや、說こたへけるは、これこそ、よろこばざるべし、道いひけるは、そは、たゞよろこばざるのみならんや、かならず、いかりて、かれ

らが、不孝の罪を、せめん、されば、およそ、こハ世界に、あるものハ、上天子より、下萬民に、いたる、まで、おなじく、天父ハ生たまふ、ところの、子類なれば、それ位の高下ろの身ハ、尊卑あることば、伯仲叔季の順序あるが、ごとくなれど、その天父なる、眞神に、つかふるの本分を、みな、ことなることなし、たかるに、なんぞ、われハ、季子なり、われを、卑賤なりと、いひて、その、父母に、つかへず、その天父に、遠ざかるの、理あらんや、

祝 いひけるハ、われらも、また神を、まつれる、ものなり、すなはち、天を、あふぎて、まつれるなり、

道 いひけるハ、天地をまつるを、眞神を、まつるに、あらず、すなはち、眞神ハ、造たまふ、

ところの、物を、まつれるのみ、たとへば、父家を建て、子ともに、をらんに、その子、父母は、つかへずして、うち、すてたる、ところの、家は、つかふるが、ごとし、天を、まつるは、なんぞ、これに、ことならん、祝とひけるは、神を拝せんが、ために、廟宇を、建立べきか、道なんぞ、廟宇を、たつることをせん、聖書に、神は、手にて、つくれる、殿に、すみ玉はずといへり、祝とひけるは、しからば、神の像を、つくるは、よきか、道よからず、神は霊は、ましませば、かたちの、うたどるべきなし、人のみることをうべきもの、ごときにあらざるがゆゑに像を、つくりて、これに、かたどることゝ、あたへざるなり、聖書に、神をば、人

の手(て)をもて、つくりみがける、金(きん)銀(ぎん)木(もく)石(せき)の、ごときものと、をもふことゝ、なかれといへり、かつ、神(かみ)の像(ぞう)を、まうくることゝ、神(かみ)のいましめを、をかすなり、祝とひけるは、神を拜するに、たゞまさる、ところありや、道いひけるは、神(かみ)その、ちからを、はなるゝこと、遠(とほ)からず、神(かみ)は、いまさぐる、ところなし、あるひは、家(いへ)あるひは、路(みち)あるひは、水(みづ)を、わたりあるひは、山(やま)にのぼる、とき、いづれの、ところ、いつの時(とき)にても、神(かみ)をば、拜(はい)することは、うべきなり、神(かみ)も又(また)われらが、いのりを、うけたまふべし、祝とひけるは、眞神(かみ)を、まつるに、牛(うし)羊(ひつじ)豕(ぶた)の三牲(みつのいけにへ)を、つらね、酒(みき)菓(くわし)をも、そなふべきか、道眞神(かみ)は、鈌(かく)る、ものなし、生命(いのち)と、呼吸(いき)とをよ

び、よろづの、ものをも、人に、あたへたまふところの、神なれば、もとより、富ゆたかにして、人のさゝげものを、まちたまふことは、なきなり聖書にも、神は靈なれば、これを、拜するものも、靈と、まことをもて、心を、つくし、意を、つくして、拜すべしとなり、祝いひけるは、もし、物をもてさゝげずば、なにをもて、神を、うやまひ、いつくしむの、こゝろを、あらはさんや、道いひけるは、聖書に、本身を、獻ことは、猶生活の、聖祭の、如し、たゞ己の、身心を、以て、其聖道に、循ひ、諸の善を、行ふとは、物をもて、敬愛するの心を表すよりも愈れりとなり、祝とひけけるは、眞神を、拜するに、朔望の、期を、もちゆべきろ、道いひ

けるハ、聖書に、いはく、かならずつねに、いのりて、おこたらざれと、これ神の、いつくしみ、つねに、われらが、靈魂肉体とを、養育て、やむとき、なければ、神を拝するも、また、ひとへ、朔望、のみ、ならず、いつの時、いつれ日と、なく、ときを、拝すべきなり、祝又とひけるハ、神を、いのるに、うるはしき、詞を、もて、すべきか、道いな、聖書に、人ハ、外状を、みれども、神ハ心を、みたまふと、いへり、されば、神を、いのるにハ、うるハしきことばをもて、いのらず、まことの、心をもて、いのるべきなり、又くりかへし、ごとを、もちゐず、へりくだりて、これを、いのること、子たるもの、父に、もとむるがごとくすべし、汝ら、す

こゝろみ、心をひるがへし、天父のこゝろへ立てかへりなき、福をえよ、祝いひけるハ、われなほ、若からば、この道に、したがはん、されど、われ今老たれば、いかにせん道いひけるは、時なほ、おそからず、いまは、汝がしたがふべき、時なり、もし、今したがはずは、後くゆるとも、およぶまじ、ねがはくは、汝これを、おろそかに、おもひ、時をば、うしなふことなかれ、傳道者首を、あぐれば、はや、日は西に、かたぶきたり、こゝに、れいて、つひに、祝と、わかれてさりぬ、

廟祝問答巻の下

さて、次日傳道者、ふたゝび、廟に、いたりければ、祝これに、坐をあたへ、茶をすゝめ、時宜をはりて、道いひけるは、我きのふ、汝に菩薩は、いつはりにして、眞に、あらずと、かたりしが汝わが言を、まことゝ、おもへるや、祝こたへけるは、我汝が、かたれる言を、信ぜざるには、あらねど、久しく心に、とめたる、一のことに、つきて、なほ、疑ふところあり、そは新安の湊なる、赤灣に、天后娘々と名る、神あるが、靈驗いちじるしきが、ゆゑに、船に、のりて、その廟の前を、すぐるもの、これを、祈り、その庇佑を、うけざるはなし、れよそ、こゝに、きたりて、福をも

とめしものは、財貨の源を、えたるがごとくなりと、人々みな、いひつたへたり、菩薩もしいつはりならば、いかでか、かゝる、靈驗あらんや、道いひけるは、汝赤灣の、境内に住る、海賊の、ほしいまゝに、民船をおびやかすこと、あるをしらずや、天后もし靈あらば、かゝる時、なんぞ、その靈をあらはし、その民をすくひ、かの苦を脫れしめざるや、もし面前に、あるものをすらすくひ、たすくる、こと、あたはば、いかで、とほくの、海外にいづる、ものを、すくはんや、しかのみならず、赤灣の、境内に、すみて、天后を拜せざるものも、福をえ、また、赤灣に、きたりて、天后を、拜するものも、禍を、うくることあり

かくのごとく、其報ひ、たがふを、みれば、天后の靈、いづこに、ありと、いはん、これ天后ハ神にあらず、又靈にも、あらず、死せし人なること、あきらかなるに、あらずや、さきハ、おのが、死をさへ、みづから、救ふことを、あたはざるのみ、いかで、他人の、死をすくふ、ことを、得んや、されハ、おのが、生を、さへ、みづから保つことを、あたはざるに、いかで、死して、後萬民を、たもたんや、おほよそ、世事の、興、廢、存、亡、又吉凶禍福、ハみな、眞神の、公義をもて、賞罰を、ほどこし、たまふ、ところにして、もとより天后の、なしうる、ところに、あらざるなり、祝いひけるハ、しかりと、いへども、天后は、皇帝より、勅封を、うけて、神靈と、な

れる、ものなり、道いひけるハ、天后すでに、皇帝より、勅封を、うけて、神靈となり、萬民を、たすけ、まもる、ことを、得ば、なんぞ、皇帝を保護て、天下太平、ならしめざるや、今かれが、しろせざるを、見れば、皇帝の、恩を、わすれ義に、そむく、ものならずや、しかのみならず、およう、命令を、いだして、封を、あたゆる、ものハ、その封を、うくる、ものに、くらぶれば、其尊ことハ、論ずるに、およばずして、明なり、それまことに、かくのごとく、ならば、皇帝の、保護をこのむハ、皇帝より、封を、うくる、ところの、菩薩に、たのむ、よりも、まされるなり、然に、皇帝の權をもち、なほ、その民の、死生存亡を、たもつ、こと、あたはず、ま

して皇帝より、位をうくる、菩薩を、たのみて、これをたもたんと、するとも、さらに、かたからじや、祝いひけるハ、汝の、いふところハ、よりて、考ふれば、天尊菩薩そ、いつはりなる、ことを、さとれり、されど、眞神に、つかへ、また、菩薩に、か、ねつかふるハ、あしからじ、道こたへけるハ、よろしからざるなり、それ世人乃、眞神に、そむきて、菩薩に、つかへて、それを、主となせは、其國の王に、そむきて、往て叛賊に、つかふるが、ごとし、今罪を悔て、眞神に、かへり、つかふるは、叛者に、そむきて、其國王に、つかふるに、ひとしきなり、祝とひけるは、皇帝ハ、つかふるものハ、叛賊にも、かねつかふべきか、道きはめて、つかふべから

ぞ、いかになれば、眞と、僞とは、あひあふことなし、此よ、したがへば、彼に、そむき、彼を愛すれば、此を惡む、一人二王につかへて、忠なるものは、いまだあらざるなり、祝いひけるは、もし誠にしからば我は、眞神に、つかへんことを、ねがふなり、

道 いひけるは、およそ眞神に、つかへんと、ならば、必まづ、

イエスを、信ずべし、いかになれば、眞神は、善を、愛し、惡を、にくみて、罪人と交り、たまはず、このゆゑに、罪あるものは、眞神に、きたり、近づくを、得ざること、あだかも國法を、おかせる、ものゝ、あへて皇帝を、見こと、あたはざるが、ごとし、世人は、みな罪を、おかして眞神に、遠ざかり神とれのきと、隔

たりし、こと、其間に垣して、通ふべき、みちを塞るが、ごとく、なれり、こゝに、おいて、救主イエス、萬人の中保と、なりて、その室血を、ながし、人の罪を、あがなひ、その、へだてと、なりし、垣を、とりのぞき、人をして、ふたゝび、眞神と、和睦、なさしむ、ことを、得せしめ、たまへり、祝とひけるは、イエスを、いかなる人ぞや、道イエスを、神の子なり、祝とひけるは、イエスと、名づくるは、なんぞや、道イエスの名は、もとギリキヤの土音なり、漢語をもて、譯せば、救世主なり、そをイエスと、天をはなれて、地にくだり、人を救ふが、ゆゑに、すくひ、ぬしとは、となふるなり、祝とひけるは、汝イエスを、神の子、なりと、

いふ、もし、しからば、神を、また、子ありや、道こたへけるを、イエスを、すなはち、神とその體、その性、その權をおなじうして、神よりいづるが、ゆゑに、神の子とは、いふなり、これ、世人の、父子と、となふる、名をかり、人をして、イエスの、神より、いで給ひて、神と至親き、その意旨、しらしめんが、ためなり祝とひけるを、イエスは、いかなる、人を救ふや、道こたへけるは、聖書にいはく、世人、ことごとく、罪を、眞神に、えたり、開闢より、このかた、世の末に、いたるまで、萬國の人、上天子より、下庶人に、いたるまで、神のまへに、おいて、罪あらざる、ものなし、このゆゑに、救主イエス、天より、世にくだり、あまね

く、天下の、罪人を、たづねて、救たまふなり、祝とひけるハ、世人は多してみな、罪あるか、道こたへけるハ、聖書に、罪なきもの、あらざるなりと、いへり、人みな、日として、神の、おほいなる、恩をそむかざるハなく、時として、神のきよき法を、おかさゞるハなし、また神を愛て、父となさず、神を敬ひて、主となさず、神をたのミて、福の、もとゝ、なさゞるぞ、こきみな、罪の、大なる、ものなり、もし、イエス、世に降りて、その罪をあがなひ、その人を、救はずば、ミづからその、罪を、のぞくひ、うるものゝ、なかるべし、祝いひけるハ、古の、人いへることあり、過て、よくあらたむ、善これより、大なるハなしと、もしよく悔

改めなばなどか、罪のきえざる、ことなからん、なんぞ、イエスを、たのみて、罪をあがなへる、ことを、用ゐんや、道いひけるは、過をしりて、改るも、これたゞ、過こし、かたの、愆を、はなれて、來らんとする、罪を、つゝしむに、すぎざるのみ、前に、犯せし、愆の、のぞけるには、あらざるなり、祝いひけるは、もし、おほくの、善ことをなさば、前の愆を、つぐなふに、たるべし、なんぞ、かならずしも、イエスの、いさほしによりて、罪を贖ふことをせん、道いひけるは、聖書に、汝らが、命ぜられしことを、皆なせしときも、我らは、無用のしもべ、なすべきことを、なせしなりといへ、ろくしるされたり、またこゝに盗賊をな

し、又ハ人をころし、姦淫をなせし、人ありて、後みづから、さとり、その罪を、悔改め、忠孝賢良の人となりたれば、今ハその目前に、ついて、論ざるも、責るところなく、また國法も、ついて、論ざるを、そむけるところ、いさゝか、なからんに、うの人、みづから、誇るべきか、しからざ、これそのおこなふ、ところハ、その分のしかるべき、ところなり、もし、その舊惡を、官に、うつたへらるゝことあらば、かならず、官吏に、とらハれ、公庭に、おいて、審をうけ、その罪の、さだまるを待ち、しかしてのち、これを、贖ひ赦さるゝことをえん、もし、贖ところなくば、必ず律法によりて、刑せらるべし、眞神の人を鞫た

まふも、またこれに異ことなし、いかにとなれば、人みな、造化養育の、深恩を己に、眞神より、うくれば、その律法をまもるハ、もとより、本分なり、これ人のすでに、本分なれば、わがおこなふところの、ものハたとへ善なればとて、格外の善功にあらず、すでに、格外の善功に、あらざれば、またなんぞ、往日おかせし、罪を償にたらんや、たとへ、終生まで、善功、おこなふとも、一次罪を、おかすことあれば、われをして、みづから、うの罪をさだめしむるに、なれり、しかるを、いはんや、善をおこなふて、なほその、足ざるをうれひ、惡をなして、常に、あまりあるを、おぼゆるをや、もし、罪を犯せしもの、みづから、

その律はのがれがたく、その刑の、まぬかれざることを、さとれるとき、一人の朋友ありて、それに、代り、その人の刑罰、まぬかれ、しめなば、彼なにをもてその恩に報答ん、いはんや、眞神の律を、犯せるハ、朋友の、贖ひうべき、ところに、あらざるをや、たとへ忠臣孝子、ありとも、其君父の、罪を贖ふことあたはず、至愛至親める、ところの、夫婦兄弟その身をすて、、これに、代るも、いかでその罪を、贖ふにたらんや、しかるに、ひとりイエスは、身をすて、、これを、贖ひ、たまへるなり、切に世人を、愛み、たまふ、その功徳、かぎりなきをば、厚く、これを、信じ、これを頼て、罪の赦を、望むべきなり、れよう、わ

が主イエスキリストに、よりたのまざる、ものハ、小兒の、坑に陷りて、すくふ、人なきよ、ひとしかるべし、それ坑に陷たる小兒ハ、おのが力をもて、みづからを、すくふ、べけんや、うもく病るもの、死せるもの、これを、すくふべきか、汝いかに、おもふや、世人の、罪を犯し、眞神の、刑罰を、うけて、かぎりなき、苦に沈淪ものハ、まさしく坑に陷たる、小兒の、ごとく、その滅亡、旦夕にあり、しかるに、世人ハ、これをしらず、おのが善功を恃て眞神の、刑罰を、のがれんとす、これすなはち、坑におちたる、小兒の、おのが力に、たのみて、みづからを、すくはんとするが、ごとし、また、かの佛に、したがひ、菩薩に、つか

へ、これによりて、眞神の刑を、のがれんと、するものハ、小兒、坑に陷て、病るものや、死せるもの、、むたり援るを、待ふ異ことなし、祝とひけるハ、イエスは、なんの、功勞をもて、人の罪を、贖ひその刑を、まぬかれしむるや、道こたへけるハ、救主イエスは、天をはなれて、地にくだり、うまれて、人となり、罪人に、代りて、苦を忍び、生命ををしまで、其聖軀を、十字架のうへに、牲へ、つひに、死して、人の罪を、贖ひ、たまへり、祝とひけるハ、イエスハ、すでに、神の子なるに、なにゆゑ、おほくの、苦をうけしや、道こたへけるは、人みな、罪を、おかして、神の刑罰をうけ、苦むべきに、イエス、人を、愛み、たまふが、ゆゑに、人

に、代りて、その苦を、うけ給へるなり、祝ひけるは、イエスは、すでに、多の、苦をうけたるに、何ゆゑに、また、十字架に、かけられて、死せしぞ、道こたへけるは、人罪をおかしたればゝ、神の刑罰をうけ、死すべきに、イエスハ人を愛み、たまふがゆゑに、人に代り、その刑を、うけて、死し、給へるなり、又その、生命をすてしに、よりて、人の生命を、贖ひかへし、たまへり、されば、その恩の、厚く、その徳の、高きことは、天地も、なをたくらぶべきに、あらず、その死を、うくるは痛苦その罪を、贖ふの、功労ハ、汝と、我と、みな、その分に、あづかれり、祝ひけるは、イエス、死をうくるは苦を、何ゆゑ、汝と、我と、あづかる

ことあるや、道イエスの、十字架に、釘られ、苦をうけて、死したまへるは、みな、汝と、我との、罪を負ふがゆゑなり、祝いひけるは、我いまだ、法を犯さず、何の罪あるや、道こたへけるは、汝いまだ、國の法を、犯さずといへども、すでに、眞神の律法を、犯せり、祝いひけるは、我平生、いまだ姦を行ひ、盗をなし、叛を謀り、人を殺し、物を害せし、ことなし、何をもて、眞神の、律法を、犯せしと、いふや、道汝たゞ、國君の法を、犯さゞるを、しりて、眞神の、法を犯せるを、しらざること、あだかも、暗房に住て、房中の、汚穢あるを、しらざるが、ごとし、そもく、イエス、世にくだり、天國の福音を、つたへて、世人の、罪

悪を、あらハし、世人の迷へる、心をひらき、たまふこと、太陽の暗室を、てらし、人をして、その暗を、はなれ、光に、つかしむるが、ごとし、汝をし、律法をもて、心を、てらし、行を、かへりみなば、眞神の法を、おろせしことを、あきらかに、さとりうべし、祝とひけるハ、眞神の、律法とハ、なんぞや、道こたへけるハ、眞神の律法ハ、十條あり、その一ハ、われの外、神ことすべからず、二ハ偶像を、拜ことなかれ、三ハ神の名をみだりに、稱することなかれ、四ハ安息日を、まもるべし、五は汝の父と母をうやまふべし、六は人をころすことなかれ、七ハ姦淫することなかれ、八はぬすむなかれ、九ハいつはりの、證據を、たつることなかれ十

ハむさぼるなかれ、これら十條の聖誡ハ、すなはち、眞神の、律法なり、汝ハ、これを、おかせることあれしとおもふや、祝こたへけるハ、我いまだこれをことごとくハ、おかさず、道いひけるを、聖善に、もし一の法を、おかさば、即全法を、おかせるなりと、しるされたり、いはんや、これら、世人は、心も、言も、行も、一として、眞神の、法を、おかさゞること、なきをや、祝いひけるは、れかをとは、何ぞや、道いひけるは、世人眞神の、律法を、おかせること、明白なり、今これをつげん、それ、世人の心、さまざまの、惡念を、懐き、あるひは、人の、妻や、女を、おもひ、あるひは、妬、忌、怒、恨、驕、詭、貪、あるひハ、仇を、報ひんことを、

おもひ、あるひハ、人を損じて、巳を、利せんことを、はかり、あるひは、財を、吝て、貧しきものを、あはれまず、あるひは、富をにんが、ために、偽の、善をなさんと、巧むなど、悉こきらは、心にて、神の、法を、おかせる、ものなり、また妄に、神の名を瀆し、謊をいひ、人を欺き、人に、あしきことを、をしへ、あるひハ、人を謗のゝしり、あるひハ、いつはりの、誓をなし、あるひハ、約をそむき、淫語を、講ずるなど、これらハ、言にて、神の法を、おかせる、ものなり、又邪術、異端をあがめ、菩薩偶像、およひ、死人、神主、靈位、山墳を拜し、又は君父に、そむき、人を殺し、姦を行ひ、賭博、掠偷、酔酒、また娼寮、賤館を、ひらき、鴉片

を、賣り、洋烟を、吸ふなど、これらのことを、なすは、行にて神の法を、をかせる、ものなり、かくのごとく、心と、言と、行ひとをもて、神の法を犯す、これを、みな、罪といふなり、汝はこの罪なき、ものと、おもふや、祝こたへけるは、我らは、すでに、みなこれを、おかしたれば、罪人なりされど、今汝は、山墳を、拜するも、また罪なりと、いへり、われおもふに、むかし、いかにとなれば、孔子いへることあり、生には、これに、事るに、禮をもつてし、死には、これに、つかふるに、禮をもつてし、これを祭るに、禮をもつてすと、いはんや、百行孝をもて、先となす、山墳を祭り、これを、拜するは、すなはち、孝の道を、つくす

なり、しかるを、何ぞ、反て、これを、罪といふべけんや、道いひけるは、山墳を、拝するも、誠に、不孝なり、すなはち、その弊四あり、一ハ理なきの行なり、二ハ益なきの行なり、三ハ其孝を憑に、たらざるなり、四は罪を神に得るなり、我こゝろみに汝がために、これを、いはん、曾子、いへることあり、牛を椎て、墓を祭るも、鶏豚の、親存をやに、およぶに、しかず、これすなはち、明かに、父母は、生前に、養ふを、よしとし、死後に、祭るも、かひなきことを、いへるなり、いはんや、また、祭物、いかに多も、父母その一をだに、享ること、あたはざるをや、それ、死せるものも、この世の、糧をもとめず、此世の、味を食せざるが、

ゆゑに、ことを、理なきは、わざとは、いへるなり、又祭そ、もと、福祓、先靈より、邀んためなれど、なんの福を、子孫を庇る、ことあたはず、祖父の、腹を、充たさん、ためなれど、なんの食も、これを、飽しむる、ことを得ず、いたづらに、天地の、財を、傷りて、ふたつ、ながら、皆一の、益なきが、ゆゑに、我ことを、無益のわざといへるなり、それ、墳を、祭るものそ、おほむね、其親を、愛するに、よりて、まつるに、あらず、たゞ、宗祖の、亡靈をして、その祭を、うけしむるといひなし、孝子の、名をもとめんと、追善供養となへ、僧侶を、招き、佛經を、轉讀せしめ、種々の、飲食、嗟嘬を、施し、且一家、親族、朋友、うち集ひ、酒食を

ほしひまゝにして、いたづらに、たゞ外觀を、飾のみ、心内に、宗祖の亡靈を、おもふ情、はなはだ、うすし、このゆゑに、我山墳を、拜するハ、その孝を憑に、たらずといへるなり、それ天地のうちに、おいて、人の跪き、拜すべき、ものハ、たゞ一の眞神の、ほかあることなし、生死禍福の權ハことごとく眞神の、手に、あるなり、しかるを、汝ら、妄ま、その權をぬすみ、これを、宗祖に、くはへて、福をくだし、災を、消んことを、もとめ、枯朽の、偶像を、拜して、罪を、眞神にうるは、いかに、愚なる、わざならずや、これみよて、おもひみば、山墳の、祭るに、たらざるを、さとりうべし、しかるに、汝すでに、菩薩の、いつはりなる

を、しりながら、何ぞ、山墳の、いつはりなるを、知ざるや、これ、先に、眞神の、律法の、ことを、論せり、汝みづから、かへりみて、これらの、律法を、おかせりと、おもふや、祝こたへけるは、汝の論ずるところを、聞ば、我は、すなはち、大なる、罪人なり、

道いひけるは、汝すでにみづから、その罪の、大なるを、しらば、イエスに、よりて、眞神の、嚴審なる、永刑を、まぬかるべし、しからずば、生命の、おはらんとするに、臨て、拯はんこと、なかるべし、祝いひけるは、イエスは、これらが、ごとき、貧賤、罪人を救ひ、たまふまじ、道いひけるは、イエスいはく、つかれたる、ものの又重を、負る、ものは、我に、きたれ、我汝らを、安ま

せんイエスは、そなたら、萬人の、救主なれば、いづれの地、いづれの、ところに、をるものにても、實に、罪を、悔ひて、これを、信じ、たのみなば、いかに大なる、罪ありとも、一人として、赦を、かうむらざるは、なし、これ、救ぬしの、罪を贖ひ、たまひ、みこゝろ、公にして、かたよらざれば、汝イエスの功を、たのみて、もろ〳〵の、罪を、贖はれ、その靈魂を、すくふ、ことをせよ、かたく、信じて、うたがふこと、なかれ、祝ひあるは、イエスを、信じて、これを、たのまんには、いかにせば、よからん、道いひあるは、聖書を信じて、「バプテスマ」を、うくるものは、救はれん、と、しるされたり、祝とひけるは、「バプテスマ」とは、なんぞ

や、道こたへけるを、「バプテスマ」ハ、イヱスを、信じて、これに、したがふもの、をはじめて、善の門に、いり、はじめて、福の路にを、その儀なり、教主イヱス、その門徒に、命じて、普く萬國に、ゆかせ、天國の、福音を、つたへしめ、これを信ずるものハ、「バプテスマ」を、ほどこし、人をして、眞神、罪を、赦したまふの、恩、および、聖靈の、感化を、うけしむるものなり、されバ、イヱスの名を信じ、その、命に、したがひて「バプテスマ」を、うくる、もののハ、罪のゆるしと、靈魂の、救ひを、うべきなり、祝とひけるを、「バプテスマ」を、うくるの、後なにを、なすべきや、道いひけるハ、「バプテスマ」を、うけしのちハ、心、念、言、行かならず、イヱ

ースの、道ふ、志たがひ、もろ〳〵の、苦をたへ忍びて、かたく、これを、まもり、眞神、およひ、救主イヱスを、敬ひ、愛み、又君父を、うやまひ重じて、おのれの、分を、つくし、義をもて、他人に、むかひ、眞神の、應許したまひし、永福を、得んことを、望べし、もし眞神の、道に、志たがはずして、そのおこなふところ、眞理に、背むき、父と、子と、聖靈の名を、けがさば、その罪を、いとおそれ、悲みなり、とさば、則、志みて、前の愆を、踏なかれ汝そやく、首をめぐらし、罪を悔ひ、過をあらためて、イヱスを、信じ、「バプ、ィスマ」を、うけなば、ろ、ならず、眞神、赦罪の大恩と、天堂に、永福を、あたへ、たまふべし、もし、この機會に、乘ずば、の

ち、之ゆるとも、及ぶまじ、祝こたへけるを、われ、をしへを、蒙れり、をしへを、蒙きり、道わがをしへたる、ところは、誠に、金石の、良言あれば、汝、心にとめて、忘るゝ、こと、なかれと、つひに、祝と、わかれて、されり、